

| |
|----------------|
| 紀の川水質汚濁防止連絡協議会 |
| 資料配布 |

| | |
|----|------------------------|
| 配布 | 平成18年9月2日(土) 18時00分 |
|----|------------------------|

| | |
|----|--|
| 件名 | 大滝ダム貯水池内の重機浸水による 油流出事故について～続報(第2報)～ |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 概要 | 大滝ダム上流4.0km付近(白屋地区)での、地すべり対策工事 中の重機の浸水による油流出について、浸水した重機を引き上げ、 油の回収を行いました。 |
|----|---|

| | |
|------|-------|
| 取り扱い | _____ |
|------|-------|

| | |
|------|----------------------|
| 配布場所 | 奈良県政クラブ 五條市政記者クラブ |
|------|----------------------|

| | |
|------|---|
| 問合せ先 | 紀の川水質汚濁防止連絡協議会 国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所 管理課長 田村 友秀 工務課長 早田 順英 電話 : 0747-25-3013 |
|------|---|

大滝ダム貯水池内の重機浸水による 油流出事故について～続報（第2報）～

昨日10時00分頃発生しました、大滝ダム上流4.0km付近（白屋地区）大滝ダム貯水池上流の白屋地区における、地すべり対策工事用重機の浸水による油流出について、本日6時00分より重機の移動、機器の回収作業及び吸着マットによる油回収作業を再開しました。

浸水していたクローラクレーン3台の移動と流出していた発動発電機1台、溶接機1台の回収を10時25分に完了しました。

回収した発動発電機1台、溶接機1台に残っていた軽油等の残量より、推定で92ℓの軽油等が流出した見込みです。（機器表面に付着した油脂類含む）

浸水現場下流約1kmに設置したオイルフェンスに付着した油分については、吸着マットにより17時に回収が完了しました。

オイルフェンス下流1km付近（ダム上流2km付近）で約幅6m×長さ20m及び約幅2m×長さ30mの範囲で2箇所、油が浮いているのを確認しましたが、吸着マットにより17時に回収が完了しました。

巡視の結果、ダム本体付近及びダム下流への油の流出は見られませんでした。念のため、ダム直下流にオイルフェンスを設置しました。

現状では、ダム貯水池内及びダム下流での魚の変死等生物への影響も見られませんが、引き続き監視を続けます。

【水没した機材のうち、油流出の可能性のあった機材の油流出量】

| 機材 | 規格 | 容量 | 推定残量 | 確認残量 | 流出 | 種類 |
|-----|------|------|------|------|-----|---------|
| 発電機 | 60kV | 170ℓ | 85ℓ | 0ℓ | 85ℓ | 軽油 |
| | | 14ℓ | 14ℓ | 7ℓ | 7ℓ | エンジンオイル |
| 溶接機 | 300A | 36ℓ | 24ℓ | 24ℓ | 0ℓ | 軽油 |

確認の結果、溶接機からの油の流出はありませんでした

【水没した機材のうち油流出の恐れのないもの】

| 機材 | 規格 | 容量 | 残量 | 種類 | 備考 |
|----------|-----------------|------|-----|---------|---------------------------|
| バイプロユニット | | 90ℓ | 90ℓ | エンジンオイル | 流出 16:00に回収 (油漏れなし) |
| バイプロハンマー | | 26ℓ | 26ℓ | 作動油 | 水没 |
| 水タンク | 2m ³ | - | - | - | 流出 |
| カラーコーン | | | | | 20個程度 流出 |
| ブルーシート | | | | | 数枚 流出 |
| クローラクレーン | 55t | | | | クローラーまで浸水 3台 |
| コンプレッサ | PDS750 | 400ℓ | 0ℓ | 軽油 | タイヤまで浸水 2台 |
| | PDS70 | 24ℓ | 0ℓ | 軽油 | 1台 |